



ふれあい交流センター湖東 浜松市中央区和地町1833番地の1
電話/Fax (053) 486-0650

開館時間：午前9時から午後4時30分（月曜日は休館）
ご利用できる方：60歳以上の方、中学生以下の子どもの保護者
高齢者や子どもの支援活動に関わる方

10月4日（土）5日（日）は給水設備工事のため臨時休館します。

同好会紹介

静和会（茶道）

講師・・・加茂由子

開催日・・・毎月第1・3水曜日の午後

おりがみくらぶ（折り紙）

講師・・・倉田悦子

開催日・・・毎月第2土曜日の午前



気象用語解説



「台風」とは、南の暖かい海上で発生し、渦巻き状に発達した巨大な雲の塊で、強い風と大雨を伴う自然現象です。熱帯の海上でできる特別な低気圧で、その風の強さが風速17m/s以上になると「台風」と呼ばれます。

「線状降水帯」とは2000年頃に研究者によって使われ始めましたが広く一般に知られるようになったのは2014年8月の広島県の豪雨がきっかけです。発達した雨雲（積乱雲）が次々と列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過又は停滞することで線上の強い雨域を形成して記録的な豪雨をもたらす気象現象です。

近年、台風や線状降水帯による被害が頻繁に起きています。

皆さんの家庭では備えはできていますか？

伊佐見地区の佐浜町から発見されたナウマンゾウの化石について紹介します。

1921年(大正10年夏)、内山新田の干拓事業で、佐浜の湖岸を埋めるための採土場から象の化石が掘り出されました。1924年(大正13年)京都大学助教授槇山次郎は、浜名湖の近くで発見した象の化石を研究した結果、かつて東京大学の地質学教授でドイツ人のハインリッヒ・エドムント・ナウマンが発見した新種の種類の象であることをつきとめ、日本の化石ゾウの研究の先覚者とも言うべきナウマンの名を取って「ナウマンゾウ」と名前を付けました。

伊佐見協働センターには、市政80周年記念ミニふるさと創生事業として作成された、実物大のナウマンゾウの骨格模型が展示されています。これは地区内の各種団体が中心に組織化した方々が、約1年費やして復元したものです。



ナウマンゾウは、日本列島に生息していた氷河期時代の象で、およそ40万年前から2万6千年前頃にかけて生息されていたと考えられています。特に後期旧石器時代(約4万~1万5千年前)には、浜名区の岩水寺にある根堅洞窟で浜北人の化石人骨がこの時代に発見されていることは、浜松市内でも人類がゾウの狩猟をしていたかもしれません。

このような時代を想像して、伊佐見協働センターに来館してみてください。

※次回は「堀江城」を紹介する予定です。

遺言と相続の無料相談会

行政書士の先生が遺言・相続について親切丁寧にお答えします。

相談日・・・10月8日(水曜日)

時間・・・午後1時30分~3時30分(一人約30分)

主催・・・遺言・相談サポートセンター浜松

※予約制ではありません。当日、順次ご案内いたします。

